

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

- ①建屋内滞留水水位及び貯蔵量
  - ・建屋内滞留水水位は運転上の制限を満足
  - ・処理装置(第二セシウム吸着装置)は運転中
- ②廃棄物発生量
  - ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし
- ③処理水タンク貯蔵量
  - ・淡水化装置(RO方式)による処理により、処理後の淡水受タンク及び濃縮塩水タンク貯蔵量は変動あり
  - ・蒸発濃縮装置は全台停止中
- ④5、6号機滞留水貯蔵量
  - ・構内散水によりF・Hエリアタンク貯蔵量は変動あり

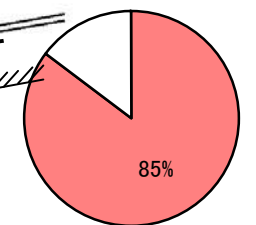
①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約14,400m <sup>3</sup>	OP.3,055
2号機	約23,500m <sup>3</sup>	OP.3,277
3号機	約24,200m <sup>3</sup>	OP.3,111
4号機	約18,500m <sup>3</sup>	OP.3,070
合計	約80,600m <sup>3</sup>	

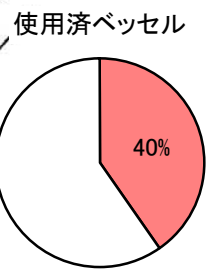
貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約16,670m <sup>3</sup>	OP.4,714
高温焼却炉建屋	約3,040m <sup>3</sup>	OP.1,940
合計	約19,710m <sup>3</sup>	

②廃棄物発生量

廃スラッジ

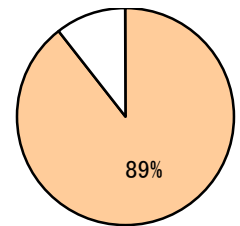


保管量:597/700[m3] ※3



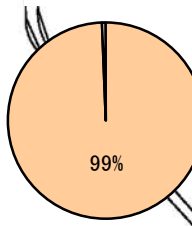
保管量:458/1137体 ※1

F・Hエリアタンク



水量:12417/13900[m3] ※3※4

メガフロート

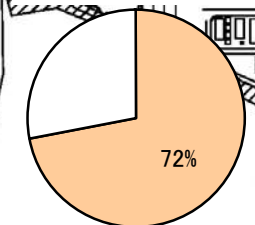


水量:7951/8000[m3] ※3

④5、6号機滞留水貯蔵量

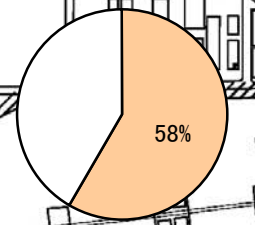
炉注水量(目標値)  
1号機:120m<sup>3</sup>/日  
2号機:156m<sup>3</sup>/日  
3号機:156m<sup>3</sup>/日

RO及び蒸発濃縮装置後  
淡水受タンク



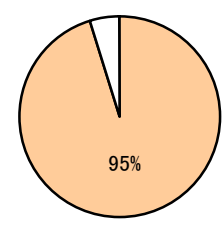
水量:22558/31400[m3] ※2,3

濃縮廃液貯槽



水量:5554/9500[m3] ※2,3

RO後濃縮塩水受タンク



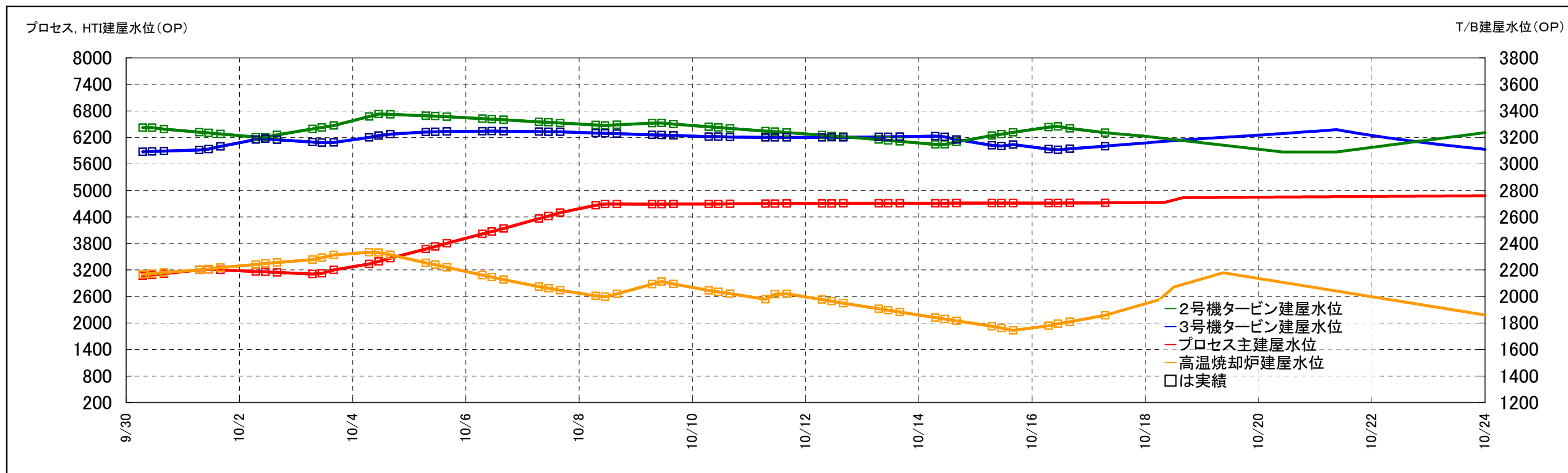
水量:186738/196200[m3] ※2,3

③処理水タンク貯蔵量

※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセルを含む  
 ※2 装置稼働中につき水位が静定しないため参考扱い  
 ※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す  
 (タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記)  
 ※4 Hエリアの増設タンクのうち、3千トン分を5,6号機滞留水用に使用

中低レベル(既設)  
 中低レベル(追設予定)  
 高レベル(既設)  
 高レベル(追設予定)  
 移送ホース布設ルート  
 淡水注水ルート

2, 3号機タービン建屋及びプロセス主建屋, 高温焼却炉建屋の水位グラフ



処理装置の稼働状況

